



6年生

「江戸の文化をつくりあげた人々」

発表で高め合う社会科授業

1 社会科での言語活動の充実

調べて発表するだけの授業にしないためには、「考えたことを自分の言葉」で交流し合うような授業にし、「活用の学力」を身に付けていく必要があります。したがって、調べたことから考え、考えたことから判断した自分の意見を発表し合い、高め合うような授業を構成することが大切です。

2 授業の導入での言語活動

授業の導入場面でよく行われるのは、出会った事象に対しての疑問を発表し合い、学習の見通しを立てるような課題設定の場を構成することです。その場面では、次のような学習活動と児童の発言が出るように指導します。

予想 … ～は、～だろう。

疑問 … 何(どこ、いつ、どのよう)だろうか。
～が～なのは、なぜだろうか。

実際に江戸の文化を学ぶ授業では、次のような意見が出されました。

「武士の世の中だから、武士の文化ではないのかな。」

「近松門左衛門や伊能忠敬たちは、町人の文化だよ。」

「町人の文化が栄えたのは、なぜなのかな。」

3 授業の展開での言語活動

授業の展開場面では、課題追究や意味追究が行われます。課題追究では、考える糸口を見つけやすくなるための視点づくりをすると効果的です。

比較 … ～と～は、～という点で同じだ。

～と～は、～という点で違っている。

分類 … これらは、～という仲間だ。

授業では、調べたことを「産業」「外国」「学問」「組織」に分類し、視点づくりを行いました。

考える視点づくりを行った後、次のように事象の意味付けや関連付けをします。

因果 … ～が～のは、～だからだ。

関連 … ～と～は、～ということに関係している。

演繹 … ～は～だ。例えば他にも～がある。

帰納 … これらは～だから、つまり～だ。

実際の授業では、町人文化が栄えたわけについて、次のような交流がなされました。

「町人が新しい知識を得られたのは、外国の書物が手に入ったからだ。」

「五街道や西廻り東廻り航路など、交通が整備されたから。つまり、町人がもうけやすくなったから力をつけたんだ。」

「町人が力をつけたのは、例えば各地の産物が発達したことも関係しているよ。」

4 振り返りでの言語活動

授業の終末に、学習内容をふまえ、事象の善し悪しについて理由をつけて論述し、これから自分や社会はどうすべきか、どうあるべきかを判断することができるような振り返りを行います。

価値判断 … ～は～だから、よい(わるい)。

意志決定 … ～は～だから、～しなければならない。

下は、実際にワークシートに書かれた振り返りの記述です。

「国学などは、武士にとっては政治を批判されることになるので、困る文化だ。」

「町人や百姓にとっては、例えば一揆など、新しい世の中にしていける力になるので、よいと思った。」

自分や友だちの一生懸命考えた意見を、自分の言葉で振り返るような学習活動によって、社会科の真善美に迫ることができるといいですね。

